

観音像修復にご協力下さい

●二体が完成しました。美しいです。修復作業は、業者が一体一体系でこなっています。



本堂正面に向かって左側の部屋の棚に安置してあるのが三十三観世音菩薩像です。老朽化がすすんだ上、東日本大震災で追い打ちをかけられ激しく壊れてしまいました。ただ今修復中です。一体十万円(税込)がかかります。この修復代を、「寄付」といって募っております。

この三十三観世音菩薩像はどんな歴史を辿ってきたのでしょうか。町区の故佐藤匡司さん(敏夫さんの義理の祖父)が書かれた玄松院三十三観世音菩薩像の「来歴」を見てみましょう。

《抑も玄松院安置三十三観世音菩薩は、明治二十八年玄松院十八世明禪大和尚が能登ノ国大本山総持寺に安居修行ノ際、本山安置西国第十八番観世音菩薩を安産ノ守護として奉受し帰りを以て、それを機会に、信心ノ者有志が日清戦争の戦死病歿勇士各英霊供養のため、三十三観世音菩薩に、東京浅草寺観世音菩薩も奉請して三十四體安置せるものであります》

当時は流産したり生後すぐに亡くなってしまふ赤ちゃんが少なからずいたのでしよう。地元婦人の安産を願ひ、また、戦死者の供養のために作ったのですね。そういえば、身内の病魔退散や孫の合格を祈願するため正明住職に観音堂で祈禱してもらっているかたの姿を、幼いころ私は何度も見たことがあります。

《支那事変から大東亜戦争となり、九ヶ年の戦争ノ後、敗戦となつたため、神社仏閣は極度に疲弊し、特に玄松院は軍隊の駐屯する所となりたる故、荒廃激しく、随つて観音像は見る陰もなく破損し、甚だしきは、其ノ姿さえ見えなくなつたのであります。茲に於て昭和二十五年観音講を組織し、永年ノ戦争犠牲者並びに戦死者将兵ノ英霊を弔うと共に、併せて寄進者各位ノ冥福を祈るため大修繕彩色を発願し、同年十二月より同二十七年一月まで三ヶ年に亘る大寒行を敢行し、近郷近在より多大なる浄財を受け金色燦然たる観世音菩薩安置が出来たのであります》

観音講員を組織し、寒行をして、修繕費を集めたのですね。心篤き人がこの中卒には昔からいたのだなあと感心するとともに、記録しておくことがいかに大切なことであるか、佐藤匡司さんの偉業にも感服します。

佐藤匡司さんがまとめたこの『来歴』には、明治時代の寄進者、戦後の観音講員の名前が列記されてあります。紙面の都合上、そのご芳名をここに記すことは出来ませんが、お心あたりがある方へ寺にお訊ねください。

さて修復代でございますが、数名のご寄付も可でございます。台座の中に寄付者のご芳名を書き込みます。

玄松院 寺報 副住職編集 正恵

千987-0024 宮城県遠田郡美里町中埠字十二神117 三浦 正恵 fishmanmiura@gmail.com

写経会

第四十一回正恵塾を、一月七日、玄松院庫院で開催しました。今回は「写経会」でした。参加者は、いつもの正恵塾のようにただ話を聞いていけばよいのではなく、筆をとって自ら書かなければなりません。厄介ですが、最初は二三名の参加でもしょうがないかと考えていたのですが、なんと二十名ご参加され、奥の庫院は満員となりました。

床の間に線香を焚き、早々に開始。写経にもいろいろありまして、凄い人になると法華経全巻を写したりしますが、私たちは初心者なので般若



▲無心で写経する参加者。筆ペンはNGと言うお坊さんもありますが、かたいことは抜きです。夏あたりに二回目をしたいと思います。撮影/佐藤忠徳

心経から始めました。写経は、基本的にはお手本があり、それを下敷にして書き写すのです。(なーんだ、簡単そう)と思われるむきがあるかもしれませんが、けっこう大変です。一字一仏。彫刻刀で仏像を彫るが如く、丁寧に書いていくのです。乾かない墨が手について手のひらと紙が真っ黒になったり、字を間違えたり、肩が凝つてきたり、集中力が途切れたりします。でも、あの日参加したかたがたは、まじめで、黙々と書き進めていくのでした。その姿は、それこそ仏さま

《観音さまが、智慧の完成をめざして深く修行なさっていたときに、この世の構成要素は、晴れわたった空のように美しいと見定められ、すべての苦から解放された》

《色即是空、空即是色という見方があることをオノヨーコさんから教わり、ジョン・レノンには「ラヴ」という曲のなかで、ラヴ・イズ・タッチ、タッチ・イズ・ラヴという歌詞を書いた。》

そんな話を、いつかゆっくり語ろうと思います。

お経を書き終えると、最後にお願いを記入します。「心願成就」とか「身体健全」とかです。私は、「為三浦家先祖代々之霊」と書きました。

本堂に移り、出来あがった全ての写経をご本尊さまにあげ、お経を唱え、回向中、皆さんの「お願いごと」を読み込みました。「きょうは練習会みたいなものですが、これから、ご先祖様の法事等の際、写経し、納経してはいかがでしょう」とお奨めし、会を終えました。 正恵

す。台座の中には、先にご寄進された方々三世くらい前のご先祖さまのご芳名がすでに書いてあります。それは残します。先にご寄進された方の児孫の方に、その像の修復代をお持ちいただくのが一番良いと思います。あなたの篤志を子孫孫まで残しましょう。尚、これは強制ではありません。ご協力、よろしくお願ひ申し上げます。 副住職 拜

墓石・外柵の設計・自社施工
墓石修理/建築石材全般
迅速・丁寧・責任施工・ご奉仕価格
墓石ショップ
新生石材古川店
大崎市古川荒谷新芋川94-1
Tel 0229-27-1483
☆新建築・戒名彫刻・墓所修理などのご相談は
玄松院様または当店窓口迄お申付け下さい

東北新幹線古川駅から徒歩1分
くらしま斎苑
倉島バイパス店後ろ
クラシマビューネス
内覧随時受付中!
お気軽にお電話ください
大崎市古川駅前大通り2-4-12
総合案内
0229-23-9111

千葉そば屋は 繁昌したのよ

美里町中塚字高畑

千葉美奈子さん(79歳)

●きれながの目をした日本風美人は、言葉づかいが関西風です。しっかりもので、嫁いだ早々に千葉屋を支えることとなりました。そして、ラーメンを作りながら、中塚の栄枯盛衰を見てきました。

美奈子 私の夫、茂輝さんの父が、三蔵さん。三蔵さんの奥さんの名前はなをよさん。なをよさんは、葛西サト子さんのお姉さん。サト子さんの主人が葛西庄五郎さんで、息子が葛西庄吾ちゃんね。

正恵 今や、みな故人です。

美奈子 そうね。



▲テレビを見たり本を読んだり悠々自適の日々。ご子息の茂隆さんは翻訳家として活躍中。

私は兵庫県から来たの。生まれたのは淡路島。おじいさんとおばあさんにいっぱい可愛がられて、淡路島で大きくなった。津名高等学校を卒業後、大阪の資生堂に入ったの。四年間勤めて、まあ、四年もいれば知り合いもできるでしょ。昼休み、女子三人で「東京へ遊びに行かない？」という話になった。女子三人のうち一人のいとこが東京の専修大学にいたんだね。そのいとこの友人が、茂輝さんだったのよ。私たちはまず専修大学の寄宿舎に行った。そして「雨降って天気になったから」ゆうて傘返しに来た人がいた、その人が茂輝さんだった。だから、偶然出会ったの。それから東京を案内してもらってね。日活の撮影所とかに連れて行ってもらった。石原裕次郎は屋ご飯を食べに出ていかなかったんだけど。で、帰りに「今度は大阪に遊びに行くからね」と言われた、茂輝さんに。「ああ、来ていいよ」って軽い気持ちで応えたんだけど、そしてたら本当に来たんだもの。

正恵 わお。

美奈子 何回も行ったり来たりしている間に、結婚してもいいということになって。内酒で葛西庄五郎さんが来てね、「♪きょうわくなく」とか、宮城県の歌うたったりしてさ。ズーゾー弁だから何言っているのか

◀店の前で。三蔵さんは将棋が大好きで、出前に行った先で将棋を指し姫のフミさんに怒られたこともあったとか…。



テーブルがふたつあった。腰掛けは木の長い腰掛けだった。その北側が調理場。調理場と店の間が壁やけどラーメンを出す窓があった。店のすぐ奥(西側)が茶の間。茶の間にはコタツがあつてさ、知っている人はみな上がつて、コタツで食べたのよ。もう家族と同じ。その奥に座敷が六畳、八畳、六畳かな、三間あつた。「米出し」で忙しいときは、三間の座敷、二階、全部使った。中田も成田も高城も、上野軍城、田中谷地中、

平針、荻塚北、全部来たの。店の入口を入ると二階に上る階段が右側にあつて、二階が私ら夫婦の部屋だったんだけど、そこも使った。天井低いんだ、店の二階だから。でも「いいから」ゆうてね。そのときは「千葉屋」と染め抜いた日本手ぬぐいを作つて、全員に配つた。各部落に、実行組合長がいるでしょ、「あんだほ何人や?」、聞いてね。ほんと、一年の儲けは秋だった。

でね、そのときまだ亜炭だった、「くど」になつていて。三蔵さんが田尻の佐々木材木屋から「そつぺ」を買つてきて、適当な長さに切つてね、三蔵さんは、そば屋の前は大工だったから、それを焚き付けにして亜炭を燃やしたの。だから釜は毎日洗つたの、店の前が堀だったから。そしたら製麺屋の菅野さんが「千葉さん、そんなのより今ポイラーあるから」ゆうてね、で、菅野さんのススめで重油にした。もう「そつぺ」も亜炭もいらぬよね。

そのころもつとよいことがあつた。出前ね、三蔵さんが最高八つ入れて運んでいた。片手運転でしょ。大変だったのよ。また菅野さん、「あのね千葉さん、今こういうのあるんだよ」、「透明のビニールみたいなのを初めて見せられた。「これをどぶりにピタッと貼り付ければ、汁が

こぼれないし、冷めない。自転車の後ろに箱をくくりつけて運べる」って教えてもらったのよ。わかる? サランラップの登場よ。それから楽になつたの。中塚診療所の青野先生も昼は毎日そばだった。先生は肉を食べなかつたから肉の代わりに盛り沢山のシナチク。病室にも運んだよね、患者さんとか付き添いの人とかに。中塚小学校は、土曜日になると先生がたは全員そばとるの。フミちゃん(三蔵さんの姪)と三蔵さんとで届けて…。まあとにかく流行つた。でも繁昌したのはうちだけじゃないでしょ。

正恵 ここは中塚の繁華街でした。

美奈子 そう。うちの北隣が笠原魚店の隣は志子田魚屋、藤棚(宍戸商店)、門脇商店、「やませ」という八百屋があつて。菊地とこやでしょ。私が結婚するときに顔を刺りに行ったのは、山岸さんあるでしょ、菊池朝秋商店の北側、あそこが佐々木とこやだった。うちらあそこで顔刺りしたの。そして朝秋さんがあつて、小松、渡辺任立屋、移つた佐々木とこやがあつて、向かいの小松。タバコ屋があつて…。

正恵 梁川商店があつて、自転車屋があつて…。学校、農協、病院、郵便局…、公的な建物を挟むように随

分らないのよ(笑)。結納にはサト子さんとなをよさんも来た。で、私会社休んで、梅田こま劇場が春祭りで見せて、大阪城へ行って、全部案内してさ…。

二十一歳で上戸に来て、二十二歳のとき長男が生まれたでしょ。二十一歳から三十三歳までそば屋をやつたの。で、三十三歳のときに高畑製工場に行ったわけ。というのは、そのころになると、酒飲んでダメとか、駐車場が必要だとか、なんだか言つてんのね。で、店の前はすぐ道路じゃない。クルマ置くとこもなにもないでしょ。

上戸は繁華街だった

美奈子 「千葉そば屋」は、三蔵さんが始めたのよ。調理師免許とつて。私が上戸に嫁に来る四、五年前じゃないかなあ。今もある、おじいちゃん調理師免許(免許番号1573。全国法定調理師会連合会会員。宮城県調理師会。千葉三蔵)これスツと店に掛けていたのよ。じいちゃんの見。調理師免許は私もとつたんだから。

正恵 店の間取りは?

美奈子 入口があつて、戸をカラカラッと開けると店内。店内には木の

分店がありました。

美奈子 そば屋をやめた理由のひとつは、インスタントラーメンの登場ね。このへんで今、誰かが美味しいラーメン店を始めたとしても、あのようなには流行らなと思う。インスタントラーメンがあるから。

沢山二人で旅行した

美奈子 父ちゃん(茂輝さん)とは金婚式で四国を一周した。大河ドラマで「龍馬伝」を放映していたときで、四国がブームだったのよ。

うちら、娘がJALにいたからシガポールにも行ったし、オーストラリアにも行ったし。九州に行つたときは、熊本空港に着いて、こんな大きな観光バスにうちら夫婦しか乗っていない(笑)。天草、雲仙、水前寺公園、熊本城…、全部二人でまわつた。次の年そのバス会社つぶれたらしいけど(笑)。楽しかったあの時は。長崎も良かったなあ。

今は一人になつて、寂しいけどさ。まあ、でもそれはしょうがないね。仏壇の中の父ちゃん(茂輝さん)には、毎朝手を合わせて、話しかけるよ。きのうも葛西フミちゃんのお見舞いに行つて来たんだけど、出かけるときは「留守番たのむね」と言つて出かける。